

岩手県総合計画審議会
令和5年度第4回県民の幸福感に関する分析部会

(開催日時) 令和5年7月27日(木) 9:30~12:00

(開催場所) エスポワールいわて 3階 特別ホール

1 開 会

2 議 題

(1) 分野別実感の分析について

(2) 令和5年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート(素案)について

(3) その他

3 閉 会

出席委員等

吉野英岐部会長、若菜千穂副部会長、竹村祥子委員、谷藤邦基委員、

Tee Kian Heng(ティー・キャンヘーン)委員、山田佳奈委員

欠席委員等

和川央委員、広井良典オブザーバー

1 開 会

○八重樫政策企画課評価課長 それでは、ただいまから第4回県民の幸福感に関する分析部会を開催いたします。

本日は和川委員、広井アドバイザーが欠席とのことですが、若菜委員、竹村委員につきましてはリモートにて御対応いただいております。委員の半数以上に御出席いただいておりますので、運営要領第6条第2項に基づきまして、会議が成立していることを御報告いたします。

議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、資料1、資料2、資料2-2及び資料3となっております。お手元の資料の御確認お願いいたします。また、第1回から第3回までの資料と昨年度の年次レポートにつきましては、お手元に御用意しております。

また、県民意識調査の公表前となっておりますので、本日の部会につきましても非公開としております。

なお、若菜委員につきましては、別用務のために11時15分に御退席される予定となっております。

2 議 題

(1) 分野別実感の分析について

○八重樫政策企画課評価課長 それでは、議事に入りたいと思います。

運営要領第4条第4項の規定によりまして、部会の議長は部会長が務めることとなっておりますので、以降の進行につきましては吉野部会長、よろしくをお願いいたします。

○吉野英岐部会長 では、早速始めたいと思います。

お手元の次第のとおりですが、最初に議題（１）の中ですけれども、幸福について考えるワークショップにおける意見等について取りまとめがありますので、事務局より御説明をお願いします。

○八重樫政策企画課評価課長 それでは、お手元の資料１に基づきまして御説明させていただきます。

１ページでございます。１の開催目的についてですが、このワークショップにつきましては、県民に幸福について考える機会を提供することとともに、ワークショップを通じて県民の幸福感に関する意識を把握しまして、政策評価などに活用していくために実施しているものです。

２、対象とした分野別実感についてですが、今年度は子育て、地域の安全の２分野について御意見を伺っております。

３、開催状況についてですが、（１）に記載のとおり、今のところ８回まで予定しております。そのうち６月に開催した４回分につきましてNPOから報告が届きましたので、今回はその内容について御報告させていただきます。これまでの開催地域は、西和賀町、葛巻町、盛岡市、大槌町であります。参集者につきましては、備考のところに記載しておりますが、第３回につきましては学生のみとなっておりますが、それ以外につきましては自営業の方であったり団体職員の方、地域おこし協力隊の方などに御参加いただいているところです。

次に、２ページ以降につきましては、出された意見をまとめております。２ページから４ページについては、子育てに係る意見を会場ごとにまとめております。まず、第１回の西和賀町の意見でございます。３点目のところに、お互いに顔を知っているので、気にかけているという意見がある一方で、５点目には高校が存続するか不安である。あとは７点目に、教育面では常に不安を感じる。１０点目に、教育環境の格差があるなど、教育面での不安であったりとか、あと９点目、子どもを預ける施設がないといった意見が出されております。

第２回の葛巻町では、１点目に子育て世代への町の施策がよい。あとは２点目、昔と比較して制度が整っているといった意見がございます。その一方で５点目、産科がなく、小児科の診療日も決まっているので、夜間休日が心配である。あと７点目、学校までの送迎が大変。８点目は、育休が取りにくいといった意見も出されております。

第３回の盛岡市でございます。１点目の認定こども園が増えた。あと２点目の自分の居住地域では公園が多いといった意見がある一方で、１４点目に子育てに付随する様々な組織活動の大変さが不安。あとは１５点目の、遊びに行く施設または土日等の預かり施設が少ないといった意見がございます。

４ページでございます。第４回の大槌町。３点目の自然も含めて心豊かな育ちができる環境に恵まれているといった意見がある一方で、７点目、子育てする世代が住みたくなる条件が少ない。仕事、レジャー施設など選択が少ない。８点目の塾もなく、お稽古事も選択が少ない。あとは、１０点目の救急、夜間診療体制が町内にはないといった意見が出され

ております。

以上が子育て分野において出された意見となっております。

5 ページから 7 ページは、地域の安全に関する意見でございます。5 ページ、第 1 回の西和賀町では、1 点目の犯罪等は少なく、その面では安全という意見がありました。2 点目の大きな自然災害はないが、山間の地域なので土砂災害は心配。9 点目の人口減が進み、生活インフラの整備、支援の仕組みなどがなくなっているといった意見が出されています。

第 2 回の葛巻町では、4 点目の地域内での顔が見えるつながりがあるという意見がある一方で、5 点目の道路が狭く歩道もないことから、高齢者や通学などは心配。7 点目の人口減、高齢化などにより、地域の様々なメンテナンスを担う人が減っているのではないかと。あとは 10 点目、次のページになります。熊の出没が怖いといった意見が出されております。

第 3 回の盛岡市でございます。3 点目の内陸は自然災害が少ないと思う。危険な箇所も少ないという意見がある一方で、10 点目の川の氾濫が不安である。11 点目の鹿や熊、最近では獣害情報が多く、どう対応すればよいか。あとは 15 点目、自転車の無灯火が多いといった意見が出されております。

7 ページに行きまして、第 4 回の大槌町でございます。12 点目で犯罪、大きな事件がなく安心できるという意見がある一方で、2 点目の自転車道路がないので、通学路の危険が増していると思う。4 点目の放置林が増え、鹿、熊の目撃情報が増えている。5 点目の土砂災害にも気をつけていく必要があるといった意見が出されております。

地域の安全分野につきましては、令和 5 年の補足調査における実感の低下の要因として、犯罪の発生状況、あとは地域の防犯体制等が選択されていますが、ワークショップの意見からはそういった意見は特になく、交通安全、自然災害、熊への対応などの意見が出されておりました。

第 5 回以降の結果につきましては、次回の部会の際に御報告したいと考えています。事務局からは以上でございます。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

第 4 回までの結果がこのように出ていますので、今の中身について、事務局も出席しているケースもありますか。

○八重樫政策企画課評価課長 ないです。すみません。

○吉野英岐部会長 事務局は、ではここに書いてある報告書を受け取っているという感じですか。

○八重樫政策企画課評価課長 はい。

○吉野英岐部会長 直接質問にお答えできるかどうか分かりませんが、一応委員の皆様から伺いたい点がありましたらお願いしたいと思います。後で多分、担当に確認していただくことも可能ですか。それも含めて御質問、御意見があればお願いします。

では、ティー委員、お願いします。

○ティー・キャンヘーン委員 すみません。感想なのですが、第3回は学生ではあるものの、第1回、2回と4回と比べて、地域差が大きいなというふうに思いました。子育てでこんなに地域差が大きければ、盛岡でさえもマイナス意見も結構多いので、ではほかの地域はというと、もっと大変だろうなというふうに考えました。これは県がやることなのか、対象市町村がやることなのか、ちょっと分かりませんが、まず整備していく必要があるのではないかなど。整備して、それでもうまくないとき、次どうするかというのを考えなければいけないのではないかなど思いました。

地域の安全に関しては、先ほど報告の中で熊の話とか獣害の話があるので、これは今の時期のワークショップなので、それが今出るといのは全くもってそのとおりで、調査したときは熊が出ない時期ですから、獣害も何もないはずなので、それは意見が違ってくるのは当たり前なのかなど思っていました。

何となく地域の安全は格差が大きいというような気がしまして、特にやっぱり中心部、盛岡とそれ以外の違いがはっきり出ているなとちょっと思いました。

以上です。

○吉野英岐部会長 子育て環境の地域差についての御感想ありました。

そのほかの委員の皆様、いかがでしょうか。

では、谷藤委員、お願いします。

○谷藤邦基委員 私も感想の域を出ないというか、2ページ目の西和賀町のところ、子育てに関して西和賀町の方の発言の中で、11番目かな、ある程度の人口規模がないと、行政サービスも民間事業もないということが書いてあるのですけれども、実に端的に人口減少問題のポイントを指摘している表現だなと思って、私非常に注目して見ていました。

今回子育て、地域の安全、両方とも通じて言えるのですけれども、実は人口が十分いれば、おのずと解消する問題も多いのですよね。例えば教育環境だって、人口さえ十分いれば、高校の存続問題というのはそもそも起きないし、塾だって民間がどんどん始めるわけです。ところが、今は人口が十分でないところで、いろいろな問題が起きてきている。あるいは地域の問題というのも、防災の面では、要するに動ける人が十分いないと、避難困難者の支援とかもできないわけで、だからこういったものは、例えば関係人口とか交流人口とか増やしたって解消しない問題なのです。定住人口をいかに増やすかということを考えていかなければいけないということが、今回の僅かな方々の発言の中において、方々に見えるなということを感じた次第です。

あとだから、ではどうやって人口を増やすのというか、要するに鶏と卵の話になってしまって面倒くさいのですけれども。ただ、私が前から言っていることを一つだけ言わせていただくと、地域は自然動態、社会動態、今両方の対策を迫られていますけれども、これは地方創生で国が丸ごと人口問題を全部地方に投げてしまったからなので、本来自然動態、特に出生、子育てのところは国全体の人口の問題に関わる話だから、ここは国がやらなければいけないのです、本来は。その上で地域づくりを通じて社会動態のほうを何とかするのが地方の役割という役割分担が本来必要だったのに、地方創生の名の下に人口減少問題

を全部地方に丸投げしてしまったから、今の状態になっている。だからといって、もう自然動態のほうの対策をしなくていいということではないのです。地方は、今の枠組みの中で自分たちでやらざるを得ないから。ただ、そういうことを国に訴えることは必要だと思う。その仕分けをきちんとできなかった。確かに人口減少は問題なのだけれども、役割分担が必要。ちょっとそれ以上言い始めると終わらなくなるので、これでやめますけれども、そういう問題が基本にあるのだということを私は基本的に思っているのだからもう地方は何でもかんでも丸ごと抱え込んでいる、苦勞するというのは、それでは絶対問題解決しないということです。

あと、地域の安全のところに関して言うと、確かに犯罪系についての心配はあまりなさそう。ただ、事故、災害系への不安はそれなりにあるかなと。あくまでも不安なので、不審者情報の話もちょっとどこかにあったような気がしますけれども、実際何か事件が起きなくても、不安感にはつながるのですよね。だから、昨日だかおといだかも、神奈川の話ですけれども、江ノ島の水族館で不審者がいるというので、全館、人を避難させてしまったという事例がありましたけれども、あれで別に何も起こっていないし、不審者自体見つかっていないのです。でも、みんなナーバスになっているから、そういうことになるということは1つ注意しておかなければいけないところだなと。要するに感覚というか、不安感の問題なので、ここは非常に厄介です。実際に安全なのだけれども、不安感はあるみたいなことが結構起きているなというところを感じた次第です。

あと、ちょっと私不勉強でよく分からなかったのですけれども、2ページ目の解決策のところの2点目です。ファミリーサポートセンターの整備を訴えるというのがあったのですけれども、ファミリーサポートセンターは何か具体的に制度化したものがあるのですか。ちょっとイメージが湧かなかったというか。もし何かお分かりであれば、ちょっとそこを教えていただきたいなと。

○吉野英岐部会長 では、私知っているのですが、滝沢でファミサポやっていて、そこはマッチングです。面倒見てくれる人のリスト化、面倒見てもらいたい人のリスト化をして、そのサポートセンターというのはマッチングをかけていって、預かりが多いと思っているのですけれども、それをうまくニーズとやれる人の間をつないでいくような制度が滝沢ではあるというのは知っていて、実際に人数とかも把握していますけれども、若菜さん、いかがですか。

○若菜千穂副部会長 花巻もありますし、紫波もあるし、そういうのは結構社協が絡んで、あるところは多いのではないかなと思います。西和賀はないですね。

○吉野英岐部会長 若菜先生自身も使ったことあるのですか。

○若菜千穂副部会長 私はないのですけれども、うちの職員は、シングルマザーなのですけれども、彼女は何回か保育園時代には使ったと言っていました。

○吉野英岐部会長 残念ながら、西和賀にはなさそうということですね。

○若菜千穂副部長 そうですね。欲しいですね、やっぱり。

○吉野英岐部長 でも、これも人口がいなくなかなか。一定数人口がいてというのがあるのですか、やっぱり。大きいところは。

○若菜千穂副部長 いや、呼びかける、誰が動けるかというだけだと思いますけれども。ちょっと私もいいですか。

○吉野英岐部長 では、若菜委員からどうぞ。

○若菜千穂副部長 すみません。このワークショップ、私のNPOの仲間がやっていて、ちょいちょいお話は聞くのですけれども、とてもいいと。今出されているレポートは、後半の部分で、このワークショップをやり始めた趣旨は、基本的に自分の幸せについて考えてもらうという機会を増やそうということで始めていて、委員の皆さんは御存じかと思うのですけれども、最初にワークシートか何かで丸をつけていくと、自分の幸福度の数値が5点満点でつくという形になっていて、さらに自分の例えば4.5とか、何で4.5になったか、子育てなのか、自分の健康なのかという自分の幸福が何に強く影響されているかというのも分かるという、実はそういう仕組みになっていて、ワークショップ1回ごとの人数は少ないのですけれども、すごく反応がよくて、またやりたいとか、うちでもやってという、そういう引きがすごく増えていて、とってもいいという、これを主宰している人は本当にすごくしょっちゅう言っていて、そもそもこのワークショップ自体は変動を把握するためにやっていたのではないというところはちょっと改めて御理解いただきたいなと思います。その変動を知るのは補足調査のほうの組立て、全体の組立てとしてはそうだったかなと思っていて、変動の要因を知る部分だけ抽出して報告いただいているのですけれども、前段の部分、本来の趣旨の部分についても事務局含めてぜひ共有化していただいたほうがいいなというふうに思います。

ティー先生もおっしゃっていましたが、地域性はすごく大きいし、言ってしまえば個人個人の差というのも大きい。幸福というのはそういうものというものがあつたと思うので、こういう一人一人の細かい意見を聞いて把握するという難しさもあるかなと思っていて、ぜひ幸福について考える機会というのがこの取組によって増えているのだというところの評価もぜひいただきたいなというふうには改めて思っております。

以上です。

○吉野英岐部長 ありがとうございます。

出ている意見については、何か御感想ありますか。

○若菜千穂副部長 そのとおりかなと思うのですけれども、特に子育てについては地方のほうは本当にただただ子どもの数が減ってしまっているという背景で、やっぱりこんなに大変になるのだなというふうなのは改めて意見を見て思いました。子どもが減ると、で

きないことも増えてくるという。あと子どもを預ける施設とか、女性の方の働いているところに関しての意見が多いので、もうお母さんもお父さんもみんな働いていると、その中で子育て支援というのはどうあったらいいのかという、そういう視点でもう組み立てていくというのがこれからの在り方なのだなとは改めて思いました。ファミサポ含めてです。

以上です。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

一通り御意見聞きましょうか。

竹村委員、いかがですか。

○竹村祥子委員 地域差については、気をつけておく必要はあるだろうと思っています。若菜委員さんもおっしゃったように、データから出てくることで同じような傾向が出てきているところについても、チェックをしておく必要があるだろうと思います。

それから、ここで4地域について見ているわけですが、盛岡でも少しは出ているのですが、病院の問題、夜間診療が不安、「ないことが不安である」というようなところが気になります。これについては、岩手県の問題として前から頭の痛いところだと思っておりますけれども、やはりそのところについては何か対応が必要だろうというふうに思いますが、岩手県が対応していないわけではないので、どこでも夜間という言葉が出ているところには、今後の政策につなげる意味で今後も注目する必要があると思いました。

それからもう一点、これも前から出てはおりますが、出産をする場所が地域の中にないということ、これも子育て支援政策という前に、子どもを生もうかどうかといったときに、この地域で生むことは、つまり厳しいかもしれないという思いを起こさせる。やはり2人目を生もう、3人目を生もうということが増えてこない、人口減ということ、人口増まで言いませんけれども、人口減をとどめる、少しは緩やかにするということがつながらないということが、全国調査では出ていると思います。人口減を促進する要因になっていないか、心配になります。

以上です。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

では、会場の山田委員、お願いします。

○山田佳奈委員 ありがとうございます。私も今まで委員の皆さんがおっしゃってきた地域の中の、あるいは地域の中でといたしますか、差というところを感じているということ。それから、谷藤委員がおっしゃっていた少子化というのが背景にあるという、これは私も感じておりました。

①のほうもそうなのですけれども、②の地域の安全のほう、こちらにつきましても、例えばこの資料ですと5ページ目の第2回葛巻町さんの下から2番目のところで、地域の様々なメンテナンスを担う人が減っているのではないかと御意見にやはり端的に現れていると感じました。つまり谷藤委員さんがおっしゃった不安感といったところの背景に

は、やはりメンテナンス、これは地域の安全に限らず、今いろんなところで人手不足が言われているので、インフラの整備にしても全般的にわたって、ということになってくると思います。また、消防団活動という文言もあります。そうしたところにもやっぱり併せて不安感というのが、あるいはいざとなったときにどれくらい人が出ることができるかということが現れてきているなというのを特に感じました。

あと、若菜委員さんが先ほどおっしゃってくださったことで、大変僭越ながらうれしいなといいますか、良かったなと思ったのは、ワークショップの最初に「幸せ」についてやっていらっしゃるということですよ。私も随分前に学生と体験させてもらってとても良かったという経験があります。これは若菜委員さんもおっしゃっていましたが、この部会のタイトルが幸福感に関する分析部会なので、その根本のところは常に中心になっていると思いますし、吉野部会長が前に、幸福感について、確か包括的なもの、あるいは総体的なものというふうにおっしゃっていたと思います。そうした根本のところの視点というのは、口はばった言い方ですが、これからも大切にしていきたいなど。間もなく任期が終わるモードの発言で、すみません。そういうこともありますけれども、こうした「幸福」について考えるというのはとても特徴のある取組だと思っていますし、ワークショップでいただく御意見もとても大切だと思うからです。

ということもありますので、後で申し上げるかと思うのですが、やはりワークショップで出された御意見あるいは考えられる解決策ですか、自分ができることというの、資料2のレポートのほうに、やはり何らかの形でどこかに、例えば今回は、とりわけ子育てと地域の安全を取り上げてやってくださっているの、やはり何らか取り上げて記載していくということが重要ではないかなと思っています。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

ここは、特にすぐ何を解決するということのセッションではないのですが、こういった御意見が出ているということと、ワークショップの全体的な流れというものも何か冒頭にあると、前段があって、あときつとこういう意見、お考えがあるということが分かると、全体が把握しやすいかなと思って聞いておりました。

いろいろ意見が出て、移住者の方の御意見なんかも結構多いみたいで、施錠なしで外出できるのがいいことなのか悪いことなのかというのは、警察としては多分駄目なこととおっしゃるけれども、そのぐらい安全性が高い町というような見方も多い一方で、住民レベルで言えばしているのかなと思いました。鍵をかけないでいいですよと誰も言われていないはずなのですが、そういう地域が現在実際にあるということに驚きの声が上がっているのも、感覚の違いがあるのかなと思いました。

あとは、これは直接ワークショップの結果ではないけれども、つい最近も新聞等で人口動態調査の結果が出ていて、やっぱり北東北3県は悪いというか、減り幅が大きいのですよね。47都道府県全て減ったというのは史上初めてと出て、外国人が増えているが日本人が全て減っているということなので、プラ・マイだけ見ると一部の地域はまだプラスにはなっているけれども、日本国籍を持っている人の人口は全ての県で減っている。岩手県、青森県、秋田県もちろんその中に入っていて、いろいろ政策は打っているけれども、やっぱり出生、自然増減、社会増減、どっちを見てもマイナスに振れているということが出

ていました。

そういった影響は、都市部よりもやっぱり今日出てきている中山間部でかなり実際に生活面、子育て面で医療機関や教育機関等々の配置にしても、早く影響が出てきてしまうのかなということが1点と。

もう一点は、育休が取りにくいというような御意見もちょっとあって、これも報道等によれば、男性育休の取得率の公表が、今度300人超での義務づけを検討しているのですよね。1,000人超だったのですけれども、300人超に引き下げるとは言っていますが、岩手県で300人いる企業というのはどこなのというと、本当に数社か、数十社もないのですよね。特に今日挙がっているような地域で300人を超える従業員を持っているとなれば、なかなか該当しないということは、国のそういったやり方はいいことなのだけれども、それでオーケーと言ってしまうと、岩手県の場合はほとんど把握できないというか、公表しなくていいということになってしまうので、そこはやっぱり自治体と県、市町村ですか、協力的な企業を募って、義務化はできないにしても、育休取得の実態をできる限り把握した上で、一般の住民の方にもお知らせできるような機会がないと、やっぱり取りたくても取れませんかというか、取らせてもらえませんかみたいな御意見がやっぱり出てしまうということで、そこを改善しないで子育て頑張れと言うのも、そういった現状が実はあまり意識的に動いていないにもかかわらず、政策的には子育てというふうに言っているものがやっぱりあまり広がってしまうと、不安感というか、不満感というか、そういうのも解消できないかなと思って見ていたので、こういった御意見を参考にしながら、県は県として県や自治体でできることについて政策的に考えていくような機会にさせていただければいいかなと思っていました。国は国でやっていますけれども、それはあくまで全国対象なので、うまく当てはまる大都市のようなところだったら効果が出やすいけれども、岩手を含む比較的人口の少なくて中山間の多い地域では、直接300人超義務化と言ったって効果は出ないですから、そこはどうやって地域で効果の出る政策を考えていただくかにつなげていただきたいと思います。こういう意見もぜひぜひ御参考にしてくださいと思いました。

こういったことをやって、全部公表するのはあと4回分なので、次回ぜひ続いての結果を待ちたいと思います。よろしくをお願いします。

では、これは結果報告なので、続いて本題のほうに入りたいと思います。

(2) 令和5年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート(素案)について

○吉野英岐部会長 議題(2)の「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポートの素案について、事務局から御説明をお願いします。

○松舘政策企画課特命課長 事務局の松舘です。座ったままで御説明させていただきます。

資料2により御説明をいたします。まず、表紙をお開きいただきまして、目次となっております。年次レポートの構成につきましては、昨年のレポートの構成と基本的に同様としております。第1章、本報告書の内容、第2章、令和5年度の分析事項、第3章、調査結果、第4章、分析結果、第5章、まとめとしております。

第3回の部会で御審議をいただきました子育て分野につきましては、追加分析1ということで別に項目を起こしております。子育ての分野につきましては、令和5年調査での実

感の変動は横ばいということでしたので、第4章の4.3.3、実感が横ばいの分野におきまして、令和5年調査の調査結果については横ばいとなったほかの分野と同様の記載をしまして、加えて第3回部会において御審議いただいた内容について追加分析1のほうに記載をしているという形にしております。

それから、追加分析2としまして、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析、こちらは昨年の年次レポートと同様に記載をしております。

それから、参考としまして運営要領、委員等名簿、開催状況等を載せております。

次のページへお進みいただきまして、資料編ということで記載をしております。今回の年次レポート（素案）には添付しておりませんが、県民意識調査あるいは補足調査の調査票、統計表、グラフなどの調査結果、それから先ほど途中経過を御報告しましたワークショップの開催結果を別に取りまとめまして、資料編という形にして、次回の第5回部会にはお示ししたいと考えております。

次のページからページ番号を記載しております。まず、1ページ目です。1ページ目は、第1章、本報告書の内容としておりまして、この報告書の年次レポートの趣旨と概要を記載しております。記載内容につきましては、昨年の年次レポートの内容を令和5年調査の調査結果により更新しているという形となります。

続いて、2ページ目です。2ページ目から3ページ目につきましては、第2章、令和5年度の分析事項となります。2ページ目には県民意識調査、それから補足調査の概要、分析方法の概要を記載しております。3ページ目には表2といたしまして、分析等に係るスケジュールを記載しております。記載内容については、こちらも昨年の年次レポートの記載内容を更新するという形を取っております。

続いて、4ページとなります。4ページ目から13ページ目までが第3章、調査結果となります。このうち4ページ目から10ページ目までが県民意識調査の調査結果となります。記載内容については、昨年の年次レポートの記載内容を更新しているという形を取っておりますが、主な変更点が2点ございます。1点目が5ページの図1及び図2です。こちらは、県民意識調査における主観的幸福感の推移のグラフです。昨年度までの年次レポートでは、基準年である平成31年以降の推移のグラフとしておりましたけれども、今年の年次レポートから平成28年以降の推移のグラフとしております。昨年度の年次レポートの追加分析1、県民の幸福感の推移に係る分析で使用していたグラフとなります。長期的な推移が見やすいかと思い、変更をしております。

それから、変更点の2点目が7ページ、図の4、県民意識調査、分野別実感平均値の推移というグラフ、こちらを今年のレポートから追加をしております。こちらも先ほどと同様、昨年度の年次レポートの追加分析1で使用していたグラフです。各分野別実感の推移あるいは分野間の差というものが分かりやすいかと思ひまして、今年度からこちらに追加をしております。

それ以外の部分につきましては、昨年度の年次レポートの記載内容を基本的に更新しているというものになります。

続きまして、11ページにお進みいただきまして、11ページから13ページ、こちらには補足調査の結果を記載しております。11ページにつきましては、調査目的あるいは対象等といったことを整理して記載しております。12ページと13ページにつきましては、調査

結果の概要を記載しております。こちらの記載内容についても、昨年度の年次レポートの記載内容を基に令和5年調査のデータを更新しているということになります。

続きまして、14ページからですけれども、14ページ以降43ページまでが、第4章の分析結果となります。このうち14ページから15ページの2ページには、分析方針を記載しております。内容は、基本的に昨年度の年次レポートと同様となります。

続いて、16ページから17ページ、こちらは分野別実感の平均値の状況を表5としてまとめております。

それから、続いて18ページは、一貫して高値又は低値の内容につきまして、表6としてまとめております。いずれも表のレイアウトなどは昨年度の年次レポートと同様にしておりまして、データを更新しているという形になります。

続いて、19ページから21ページですが、こちらは主観的幸福感の結果について記載をしております。19ページにつきましては①主観的幸福感の推移、②属性別の状況、③幸福感を判断する上で重視された項目について、昨年度の年次レポートの記載内容を基にしまして、令和5年調査の結果を使ってデータを更新しているという形になります。

続いて、20ページから21ページ、こちらについては一元配置分散分析の結果を示したグラフを令和5年調査の結果に更新しているという形になります。

続いて、22ページですけれども、22ページは表8といたしまして、分野別実感の平均値の平成31年以降の推移を表でまとめております。表の体裁については、昨年度の年次レポートと同様となります。

続いて、23ページ以降ですけれども、こちらは43ページまで各分野別実感についての記載となります。このうち23ページから26ページは、上昇した2分野についての記載となります。23ページから24ページ、こちらは上昇の1分野目、心身の健康について記載をしております。記載している内容については、前回の第3回部会でお示しした資料を基に記載をしております。これ以降の分野も同様となります。

第3回部会の資料から変更した点ですけれども、24ページをお開きいただきまして、中ほど、黒ポツの2つ目、ゴシック体になっている部分ですけれども、実感が上昇した要因を記載している部分ですが、第3回部会資料では要因の後に補足調査の自由記載欄の内容を続けて記載しておりましたけれども、表10あるいは表11として自由記載欄の内容を表で整理しております。こちらの整理の仕方については、心身の健康以降の分野も同様となります。

続いて、25ページ、26ページは、上昇の2分野目の家族関係について記載をしております。第3回部会資料から変更した点についてですけれども、下のほう、②基準年と比較して分野別実感が上昇した要因の黒ポツの3点目、こちらにおきまして、実感が上昇した人と低下した人の比較で差があったものは、記載内容に「一緒にいる時間」など3項目あったわけなのですけれども、次の黒ポツの4つ目、ゴシックで要因を記載しているところに、前回の部会資料ではこれらの3項目の記載漏れがございましたので、今回追記をしております。実感が上昇した要因として6項目ということで整理をしております。補足調査の自由記載欄については、先ほど御説明したとおり、25ページから26ページにかけて表13ということで整理をしております。

続いて、27ページです。27ページから38ページまで、低下した6分野について記載を

しております。27 ページから 29 ページまでが低下の 1 分野目、余暇の充実となります。前回の第 3 回部会の議論におきまして、27 ページの下のほう、②基準年と比較して分野別実感が低下した要因、こちらの黒ポツの 3 つ目におきまして、60 歳以上の無職という記載があったわけですがけれども、こちらの 60 歳以上の無職について余暇時間のデータが提示されていなかったということがございましたので、今回別に資料 3 ということでデータをお示ししております。

別な資料になるのですが、資料 3 を御覧いただければと思います。上のグラフが 1 次活動、2 次活動、3 次活動の内訳となっております。上のグラフに 4 段ありますけれども、この 4 段のうちの上の 2 段が 60 歳以上の無職の方のデータということで、上のほうが令和 5 年調査、2 段目のほうが平成 31 年調査の結果となります。それから、下の段に 2 つデータがございますけれども、こちらが参考として前回資料でお示ししている 70 歳以上の無職の方のデータとなります。60 歳以上の無職の 3 次活動時間、いわゆる余暇時間につきましては、平成 31 年は 539 時間、令和 5 年は 563 時間となっております。第 2 回部会資料でお示しております全体の平均よりは多いという結果になっておりましたので、こちらの資料につきまして御報告いたしたいと思っております。

それでは、資料 2 の 28 ページにお戻りいただきまして、余暇の充実の続きですがけれども、補足調査の自由記載欄、こちらについてはこれまでと同様に表 16 で整理しているという形になります。

続いて、29 ページから 31 ページですがけれども、低下の 2 分野目、地域社会とのつながりについてとなります。第 3 回部会資料から変更した点ですがけれども、30 ページに進んでいただきまして、中ほど、②基準年と比較して分野別実感が上昇した要因、こちらの黒ポツの 5 つ目です。「なお、当該分野については」というところの段落ですがけれども、前回の部会の御議論を踏まえまして、最後の部分、「属性によって実感が低下した要因が異なることも推測されます」と修正をしております。こちらは、第 3 回部会資料においては「多様性がある」というふうな形で表現していたところとなります。

それから、続いてその下の黒ポツの 6 点目、第 2 回の部会の御審議におきまして、地域社会とのつながりの実感の低下について、新型コロナの影響だけでは語れないのではないかというような御議論をいただいております。その中で新型コロナの直接的な影響というよりも、低下傾向を加速した、あるいはその方向性を顕在化させたというような意見もいただいております。こちらに記載を加えております。補足調査の自由記載欄については、これまでの分野と同様に表 19 で整理しているという形になります。

続いて、その下の③一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因についてですがけれども、こちらの分野については平成 28 年からの一貫して低値というものがなくて、平成 31 年以降ということで、補足調査の属性の該当者数が少ないということ、それから平成 31 年以降ということであるということで、この事実の記載のみでよいのではないかという御意見をいただいておりますので、事実関係の記載のみとして、分析は省略ということにしております。

続いて、31 ページから 32 ページは低下の 3 分野目、地域の安全について記載をしております。第 3 回部会資料から変更した点ですがけれども、32 ページ目、②基準年と比較して分野別実感が低下した要因、こちらの黒ポツの 5 点目を追加しております。「なお、岩手県

は、国が設定した」というところの段落ですけれども、こちらは前回の部会におきまして、沿岸広域振興圏での実感の低下について、日本海溝・千島海溝の地震に係る津波浸水想定等の公表の影響もあるだろうという意見をいただいておりますので、こちらに記載を加えております。補足調査の自由記載欄については、これまでの分野と同様に表 22 で整理をしているという形となります。

続いて、33 ページから 34 ページ、低下の 4 分野目、仕事のやりがいについて記載をしております。第 3 回部会資料から変更した点ですけれども、33 ページの下段、②基準年と比較して分野別実感が低下した要因とございますけれども、次のページにお進みいただきまして、34 ページ目の最初の黒ボツですけれども、こちらを追加しております。「なお、有効求人倍率（厚生労働省岩手労働局公表）は」というところの段落ですけれども、こちらを追加しております。こちらは前回の部会におきまして、沿岸広域振興圏での実感の低下について、雇用情勢の影響もあるだろうという御意見いただいております、有効求人倍率のデータを基にこちらに記載を加えております。補足調査の自由記載欄については、これまでと同様に表 25 で整理という形にしております。

続いて、34 ページから 36 ページ、こちらは低下の 5 分野目、必要な収入や所得について記載をしております。こちらは、第 3 回部会資料から大きな変更はございません。補足調査の自由記載欄については、35 ページ、表 27 に整理しているという形です。

続いて、37 ページから 38 ページ、こちらは低下の 6 分野目、歴史・文化への誇りについて記載をしております。こちらも第 3 回部会資料からの大きな変更はございません。補足調査の自由記載欄については、37 ページから 38 ページにかけて表 30 で整理をしているという形です。

続いて、39 ページからですけれども、43 ページまで、横ばいの 4 分野目について記載をしております。39 ページは横ばいの 1 分野目、子育てについて記載をしております。こちらの子育ての分野については、前回の部会でお時間をいただいて御議論いただいたところですけれども、こちらには、横ばい分野において例年記載している内容を記載しております。それ以外の部分については、この後御説明する追加分析 1 のほうに記載をしております。第 3 回部会資料から変更した点ですけれども、②一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因のところですけれども、こちらの最後のゴシックで書いてある部分の辺りですけれども、補足調査の要因の項目としての「わからない」というのがここに出てくるのは、あまり流れ上よくないのではないかというような御意見もいただきましたので、前回の部会の御意見を踏まえて、こちら分析のほうからは除外しているという形にしております。

続いて、40 ページから 43 ページ、こちらは横ばいの 2 分野目、子どもの教育、それから 41 ページが横ばいの 3 分野目、住まいの快適さ、続けて 4 分野目、自然のゆたかさについて記載をしております。記載内容については、横ばい分野において例年記載している内容について、令和 5 年調査の結果を基に数値等を更新しているということになります。

続いて、44 ページから 48 ページまで、こちらが第 5 章、まとめということで、主観的幸福感と 12 分野における実感の平均値と基準年である平成 31 年との比較、変動した属性、変動要因、一貫して高値、低値について、昨年度の年次レポートと同様に記載をまとめているという形になります。

続いて、49 ページです。こちらから、前回、第 3 回部会において御議論いただいた子育て分野の内容のうち、先ほど御説明しました例年の横ばい分野の記載内容以外の部分について、追加分析 1 として取りまとめております。

50 ページから 51 ページには、趣旨と分析内容を記載しております。分析内容としましては 2 点ございまして、1 点目は、これまでの実感平均値の推移をまとめて振り返ってみたこと、それから 2 点目は、補足調査における分野別実感の回答理由と関連が強い要因に関する回答内容を取りまとめて傾向を分析したこととなります。そして、県民意識調査の概要と補足調査の概要について記載をしております。

52 ページから 56 ページまで、分析結果を記載しております。このうち 52 ページから 54 ページについては、実感平均値の推移についてまとめております。図 1 については子育て分野の全体の推移、図 2 は性別の推移、図 3 は年代別の推移、図 4 は世帯構成別の推移、図 5 が子どもの数別での推移ということで、グラフでまとめております。53 ページの図 3、年代別では、青色で示す 20 から 29 歳、あるいは紫で示す 30 から 39 歳において、ほかの年代に比べると平均値が低い値で推移しているということ。それから、54 ページの図 5 ですけれども、子どもがいない方において子どもがいる方よりも低い値で推移しているという点について、前回の部会でも御指摘をいただいております。また、令和 5 年の県民意識調査の回答者の年代と子どもの数別のクロス集計を載せております。20 から 29 歳、あるいは 30 から 39 歳の年代において、子どもはいないの割合が多いことをお示ししております。

54 ページの中段のところですが、前回の部会の御審議で、子育てしやすいと感じていないがために子どもがいないということが考えられるという意見をいただいておりますので、その旨の記載をしております。

続いて、55 ページから 56 ページについては、補足調査における分野別実感の回答理由と関連が強い要因に関する回答内容を取りまとめたものとなります。こちらの表 2 でお示ししている単年の単純集計、あるいは表 3 でお示ししている基準年と比較した変化別、どちらにおいても子どもを預けられる環境、配偶者の家事への参加、こういったところが子育ての実感を感じられやすくしていること、逆に子育てですとか教育面での費用面での心配、医療機関、遊び場の状況が実感を感じられにくくしているといった傾向にあるといったことを記載をしております。最後に 56 ページの下の方で、まとめとして以上の内容を記載をしております。

以上が追加分析の 1 の部分となります。

57 ページ以降が追加分析の 2 ということで、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析となります。第 3 回部会の御審議におきまして、新型コロナウイルス感染症の流行について、県民意識調査の調査時期であります令和 4 年の 1 月と令和 5 年 1 月では流行状況は大分異なっていたということ、一方で調査結果については、令和 5 年調査については令和 4 年調査とほぼ結果としては同内容であったということについて御指摘をいただいております。

そういったことを踏まえまして、58 ページですが、最後の段落、なお書きのところですが、こちらに令和 5 年の県民意識調査の調査時期の新型コロナウイルス感染症の流行状況について記載を追加しております。

また、ページをお進みいただきまして、63 ページの最後の段落のところですが、「令和5年の調査時において、新型コロナウイルス感染症の流行状況は、前年とは異なる状況にありましたが、調査結果は令和4年調査とほぼ同様の傾向を示しており」ということで追記をしております。

以上が追加分析2の第3回部会資料からの変更点となります。

続いて、少しページをお進みいただきまして、73 ページまでお進みいただきたいと思えます。73 ページ以降は、昨年度の年次レポートと同様に参考となります。参考1といたしまして、県民の幸福感に関する分析部会の運営要領、参考2といたしまして委員等の名簿、参考3といたしまして開催状況を添付しております。参考4については、部会審議における主な発言ということで、今年度のレポートについても添付を予定しておりますが、簡条書等にしまして、昨年度のレポートよりもボリュームが少なくなるような形で取りまとめたいと考えております。

以上、長くなりましたけれども、今年度の年次レポート（素案）の内容となります。

また、資料の2-2といたしまして、以上の内容を概要版として整理をしております。こちら併せて御確認をお願いしたいと思います。

以上が資料2と資料3の御説明となります。説明が長くなりましたけれども、御審議よろしくお願いたします。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。一通り全ての項目にわたって御説明いただきました。

これから御質問、御意見いただきますが、若菜委員が11時15分に退室というふう聞いておりますので、すみません、先にちょっと今までの説明を聞いての質問やら意見やらがありましたら、伺いたいと思えますが、若菜さん、いかがでしょうか。

○若菜千穂副部会長 今までの会議で丁寧に議論をして、こちらの意見も丁寧に取り上げて、よくまとめていただいていると思えます。

ただ、説明のときにもお話しされたのですけれども、資料の54ページとかの子育て、随分前回は議論をした子育ての実感のところの要因分析で、54ページのこの中の文章、グラフとグラフの間の文章は、何かやっぱり通じるようで通じない。「以上のことから、20代及び30代において、子どもがいない背景に「子育て」に関する実感が低い」というのは、何か今までの議論を表現しているような表現していないような、ちょっと分かりづらいなという。

確認なのですけれども、子どもがいないから実感が低いと言いたい文章なのか。実感が低いから子どもがいないと言いたいのか。これは、子育て環境は今国も挙げているところなので、ちょっと慎重に十分注意した文章にする必要があると思っているの、その辺りぜひ整理いただきたいのと。

あとすごく誤解を生みやすいのは、「子育てに関する実感が低い」という表現が、ここで言っているのは子育てに関する幸福実感なのですよね。だから、子育てをしているという実感と子育てに対する幸福的な実感が、聞く人にとって子育て実感だと思ってしまうのです。なので、少しここ全部「実感」を「幸福実感」と足してしまうと、もう全部変えなけ

ればいけないので大変だと思うので、ここの部分だけでいいのですけれども、もう少し言葉を足されてもいいのかなという。そもそもどっちを言いたいのでしたっけというところは、すみません、前回の議論を蒸し返してしまうようで申し訳ないのですけれども、そこがやっぱり一番気になりました。

以上です。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。後段のところは、アンケートの質問文では、「あなたは子育てがしやすいと感じますか」という質問なのです。その実感を1から5まで選んでくださいということなので、子育てがしやすいかどうかなのですよね。

○若菜千穂副部会長 そこまで入れたほうがいいかもしれないですね。

○吉野英岐部会長 子育てしているか、していないかなのね。だから、そこまで書いたほうが確かに、しやすいのか、しやすいと思えないのかということですよ。しているか、していないかだけ聞くと、していない人はしていないと答えてしまうかなというところの誤解が出ないようにというような御趣旨かなと思って聞いていました。

○若菜千穂副部会長 そうです、そうです。ありがとうございます。

○吉野英岐部会長 質問文を生かす形で文章のほうも作ると、少しその辺り通じるかなというのが後段のところですね。

前段の部分は、していない人、していないというか、子どもがいない人が確かに低いのは事実なので、それは原因なのか結果なのかというのがちょっとどっちとも分かりづらいと。こちら辺をどういうふうと考えて記載したらいいのかということで、「原因」と書いてしまうと、またどうかなというか、「結果」と書いてしまうと、うーん、それもなという感じで、ちょっと書き方が難しいかなというふうに私聞こえたのですけれども、若菜さん、いかがですか。

○若菜千穂副部会長 そのとおりです。さすが吉野先生、ありがとうございます。

○吉野英岐部会長 事務局的には何か、あるいは委員の中でこういう……山田委員、どうぞ。

○山田佳奈委員 私もかなり同じ感想を持ってまして、ここは本当にある意味かなりセンシティブなところだと思っていますので。

ちょっとすみません、非常に乱暴な御提案になるのですけれども、ここまでおまとめいただいたところで大変恐縮なのですが、私からの御提案としては、ここの図5の下はカットして、それであれば56ページの(3)のまとめの2つ目の白丸もカットして、先ほどもちょっと申し上げましたけれども、ワークショップの結果ですとか、今回特に補足調査のほうで具体的な内容を書いていただいていますので、やはりそれらを盛り込むというのが

1つあり得るのではないかなというふうに思っています。

というのは、ほかにも理由がありまして、ここの追加分析1の趣旨のところでは「平成28年から令和5年までの実感の推移を確認し」となっていて、ここの追加分析ではどういうことを見ますかねと見ていくと、54ページの下のところがちよっと浮いてしまうというか、流れるにここは「あれっ」という感じになってしまうのではないかなという気がしています。そうした構成あるいはバランスのこともあって、もし、「ではどうして低いか」に少しでも踏み込むとすると、先ほど若菜委員がおっしゃったように、かなり入れる必要があるか、あるいは淡々と結果を示して、具体的にはこうした御意見については、例えば「令和5年の補足調査では具体的な内容を記載していただいたので、それらも入れました」ということで十分通るのではないかなと個人的には思っています。

以上です。

○吉野英岐部会長 御提案も含めてありがとうございました。

そのほか、ここの記載について、こうしたらいいかなという御意見があれば、ティー先生、いかがですか。

○ティー・キャンヘーン委員 私ですか。

○吉野英岐部会長 数字だから、ここ。数字の解釈。

○ティー・キャンヘーン委員 私であれば、子どもがいない年代別において、皆さんがこの問いについてどう答えたかというのを示す。

○吉野英岐部会長 指標を作るということ。

○ティー・キャンヘーン委員 そうです。示す。それで、本当に子どもがいないで、皆さん子育てしにくいというふうに感じてもらえば、一つのメッセージになるかと思います。

山田委員が今言ったように、平成28年から令和5年までのを見たいというふうになれば、ちよっと事務局大変なのですけれども、データとしてありますので、その部分も併せて示してもらえば、毎年多分同じ結果になっているはずなので、それであれば十分載せるメッセージ性としてはあるかなというふうにちよっと、また複雑にしていくのですけれども、すみません。私だったら、そういうふうにちよっと考えました。

○吉野英岐部会長 子どものいない人の年代別で実感のほうも聞く、併せて掲載すると。

○ティー・キャンヘーン委員 という表ができれば……

○吉野英岐部会長 今のところ表1ですと、子どもの数と年代だけ出ているので、これは1つ前提はこうですよということで、この前提が実感とどう結びつくのかという数字が出ていれば、メッセージ性が出そうということですか。それでちよっと何か記載をする、文

言を入れるのなら入ると。ちょっとどっちが原因か結果というのは、結局よく分からないのだけれども。

○ティー・キャンヘーン委員 両方あると思います。

○吉野英岐部会長 両方ある。あまり原因、結果にこだわらないで、こういう関係性が見えるというぐらいにしておくぐらいですかね。

では、谷藤委員さん、お願いします。

○谷藤邦基委員 実は私もここを読んでいて、逆に言うと私は「ああ」と思ったというか、そもそも子育てのところにに関して、子どもはいないという人はもう無視してやってもいいのではないかと最初は思っていたのです。最初は思っていたのだけれども、ただこれを見て、「ああ」と思ったのは、子育てがしやすいというところの実感が低いことが、そもそも出生に影響している可能性というのがあるのだろうなど。ただ、そこまで強いことは実は言えないのです、私たちの調査では。だから、可能性を示唆する程度の表現にとどめるというのはやむを得ないのかなと。そこから先は関係当局で深掘りしてくださいでいいのかなと。だから、もうちょっと表現、何とかならないかなと思うところはあるけれども、これがあることによって、ちょっと私認識変わったのです、実は。だから、これはこれで残しておきたいという感じはある。ただ、確かに文章は回りくどいというか、これ以上書けないというの分からないではないので、だからどうしようかなと。では、このままでもいいかというか、何かそんな感じです、私の印象としては。

ただ、少なくとも私ちょっと認識変わったのは事実。だから、子どもがいなくてというのが原因なのか結果なのかはちょっと分からないのもあるし、ただ可能性として、その可能性が見えているよねということであれば、それを示唆するような部分は残しておいたほうがいいのかなと思いました。

○吉野英岐部会長 いないという人の中には、これから生むかもしれない人も入っているかもしれないと。そういう人の意見というのが、確かにここに反映されている可能性もあるということですか。つまり子育て環境が厳しそうだから、今はいないというようなつながりもあるかもしれないと。いないから分からないというか、実感が出てこないというものもあるかもしれないと。

○谷藤邦基委員 だから、子育てしやすいかどうかというその実感を聞いていたら、子育てしている人にだけ聞けば本当はいいのだろうと最初は思っていたのです。だから、ある意味、これはひょうたんから駒みたいな話で、こういう結果が出ることを意図してやっていた調査ではないのだけれども、やった結果としてはちょっと待てよと。何か脇道のほうにちょっと別な問題というか、あるいは解決すべき問題というか、それがどうもほのかに見えるよというところまでは書いておいてもいいと思うのです。

ただ、それが本当にそうかどうかというのは、また別な議論なり調査なりが必要で、そこまで私たちは踏み込めないと思うので、この報告書では、その可能性を示唆する。だか

ら、「可能性が推測されます」という表記になっているけれども、私はそれでいいのかなと思っている。ただ、実際何を言っているのという感じの文章なので、さらっと読んだときに。だから、その文章の工夫はあってもいいかもしれないけれども、これ自体はあったほうがいいのかないかなと思いました。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。何か普通に考えると、たくさん子どもがいる人は大変なのかなという感じに見てしまうけれども、子どもがいない人でも大変さを感じている可能性は、やっぱりこのデータから可能性としては示唆で書いておいてもいいのではないかということですね。

○谷藤邦基委員 だから、あくまでも実際やってみてどうですかという感じで設問自体は作ったと思うのです、最初は。ただ、実際はそれがどう見えているか、これから子育てをする人たちにどう見えているかというのが、子どもはいないという人たちの評価としてもし出ているのだとすると……。だから、年取ってしまったって、もうこれから子どもをもつ可能性のない人たちはいいのだけれども、でも実際に結構若い人たちがそう思っているという結果が出ているわけで、これも結構重要な示唆がここにあるのではないかなと思うのです。だから、4人以上いる方々というのは、実はそんなに苦労と感じていないというか。

○吉野英岐部会長 しやすいから、子どもがいるという可能性もあります。

○谷藤邦基委員 少なくとも、してみてもうどうだったかという話は置いておくとして、その前段としては多分やっつけられるだろうと思うから出産をしているというのも可能性としてはありますよね。ただ、そこはあくまでも可能性の話であって。ただ、少なくとも状況証拠として、そういう子育てしにくそうだというのが子どもを生むことの阻害要因になっているという可能性は見えている。それは否定はできない。であれば、その可能性を示唆するものが残っていてもいいのかなと思います。

○吉野英岐部会長 何かさっきの不安感に近いですね。

○谷藤邦基委員 そうです。だから、本当に感覚の問題で、すばっと割り切って、ロジックでどうのというわけにいかないのだけれども、この辺は何か私らはそれでいろんな可能性が見えてきましたということも一つ役割として実はあるのかなと今思っています。

だから、この分析は、これはこれで、ただ文章の表現、もし何とかなのであれば、もうちょっと。要は語らずして分からせるというのも難しいか。

○吉野英岐部会長 高等戦術ですね、それは。

○谷藤邦基委員 実際どこまで明確に書けるかという問題もあるので、だから最後はこれでもいいのかなと思いつつ。これがあることによって、実際私自身の認識がちょっと変わりました。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

若菜さん、どうですか、こっちの議論を聞いていて。

○若菜千穂副部会長 最後は委員の、何か委員が所感書くところなかったでしたっけ。何かそこで補足してもいいのかなど、ちょっと私。もうこの文章はシンプルに、数字はこうでしたというのにして、でもいろいろ読めるよみたいなのは、何か委員の意見のところ。

○吉野英岐部会長 何か1回書いた記憶がありますけれども、令和4年版にはありませんっけ。

○若菜千穂副部会長 ないのでしたっけ。

○松館政策企画課特命課長 この素案でいくと、今空欄にしているのですけれども。

○吉野英岐部会長 空欄なのですね。

○松館政策企画課特命課長 75 ページの。

○吉野英岐部会長 資料2。

○松館政策企画課特命課長 資料2の75 ページ、部会審議における主な発言ということで、後ほどこちらのほうは取りまとめたいと思っておりまして。

○吉野英岐部会長 あるいは何か書いてもいいですか、委員が。部会審議とは別に、所感みたいな。何か前に若菜さん、書きましたっけ。

○若菜千穂副部会長 何かあったような。一から書くのは大変なので、今の議論を書いていただけるのであれば、それを基に私たちがそれにちょっと加筆して、今の議論を補足するというのが、議論を聞いていて一番よいまとめかなと思いました。

○吉野英岐部会長 委員会内の発言には間違いないので、そこを記載で残すというやり方で。事務局の解釈をかなり突っ込んでやってしまうよりは、委員の示唆という形で、こういうふうにも考えられるのではないかというほうが確かに取り入れやすい、読みやすいかなと思いましたね。ちょっとその辺は、構成を考えましょうか。

○松館政策企画課特命課長 そうですね。分かりました。そこは、追加分析1の子育てのところに係る意見を後で。

○吉野英岐部会長 子育てに限らずかな。ほかのところの意見もあるかもしれません。

ありがとうございました。若菜さん、ではそれで進めてみます。

あと先に、では竹村委員さんから聞きましょうか。

○竹村祥子委員 今までの各委員の議論で出てきた点に同意いたします。54 ページのところは、若菜委員がおっしゃるように、事実を書いておくというところでとどめるほうがいいだろうと思います。

それから、谷藤委員のおっしゃるように、子育ての環境があまりよくないということは、実際に子どもを持たない若い人たちに、これから結婚して子どもを生むということの気持ちを萎えさせるというか、削っていくということはあるだろうと思います。というのは、今回の最初のところで検討させていただきました各地域のワークショップの、盛岡は学生ということです。学生のところで子育て環境についての意見が出ているので、子どもがない若い人たちでも子育ての環境についてあまりよい話ばかりが出てくるわけではなくて、悪い話についても出てきているところを見ると、谷藤委員の御心配というか、御判断のようなこともやはり考えていかなければいけないと思いました。

これは、各委員の所感を書くところでも書くかどうかは別として、政策につながるということを意識するとすれば、55 ページのところの補足調査の部分、分野別実感の回答理由と関連が強い要因として出てきたもの、この中で「あまり感じない」のほうで挙がっていることと「感じる」のほうで挙がっていることが、令和5年のところも確認できるように、違う項目が挙がってきていて、「あまり感じない」というほうについては、教育費用の問題とか、それから医療機関についての「充実」と書かれているので、充実していないということと関係ある。これは、先ほどのワークショップの中でも医療の問題は出てきていたので、こういうところとの関係を今後検討する必要があるという記述が55 ページのところには必要だと思います。

以上です。

○吉野英岐部会長 ありがとうございました。結構意見が違っていますものね、感じる人と感じない人。何か感じない人は金目が多くて、感じる人は環境が大変だよねというので、やっぱりそれは確かにそう言われてみたら違うし。だから、逆に言えば、感じない人はお金が大変だから、ちょっと無償化とか給付金とかとやっても、環境が変わらないと、実際やっている人から見ると、それも大事だけれどもという意見は、今日のワークショップの中でもあったような気がするのです。給付金では片づかないみたいな。そういった何かリンクできるようなところもあるので、竹村先生おっしゃったように、こういうことも十分入れて、政策的な反映に持っていくというような我々のミッションは分析だけではなくて、有効な政策をどう打っていくかというものにこれを使っていただければ一番いいということですので、先生おっしゃるようなことをうまく書き入れるか、最後の所感に入れるかあたりはちょっと考えましょうね。大分違ってるといふ感じはちょっと、せつかく表2が出されている以上、これを使ってもいいのかなと思って聞いていました。ありがとうございました。

あと会場で全体を見てということですがけれども。では、山田委員からいきますか。

○山田佳奈委員 では、非常にシンプルなところでさせていただきます。追加分析1のところで、適宜図1とか図2とか入れていただくと分かりやすいかなというところを。

○吉野英岐部会長 文章の中に。

○山田佳奈委員 文章の中に。例えば括弧でもいいと思うのですけれども。それまでのところは「表12のとおり」というふうに、割と明確に入れてくださっています。もちろん、全て文章に入れていくと大変になるので、文章の最後にちょっと括弧で入れていただくとか、そんな感じでいいと思うのですけれども。細かい点ですけれども。

あとそれから、先ほどお話があった75ページについて、です。今のお話ですと、それぞれの委員が書くかもしれないということかと思いますが、この75ページのところは、これまでの部会の議事録から事務局さんが抽出されるというのは結構大変な作業でいらっしゃるだろうなというふうにちょっと感じていたので、なくてもいいのではないかなというふうに正直思っていました。もちろん、もしお手間でなければ、整理は大変だと思いますがお任せしますというところなのですけれども、議事録からの抽出はできるだけお手間にならないようにしていただいたほうがいいかと思います。

○吉野英岐部会長 部会を振り返るというのは確かに、審議途中の御意見と全体の回を振り返ってというのは、ちょっと違うと言えば違いますものね。

○山田佳奈委員 そうですね。

○吉野英岐部会長 振り返って書くのも、一つの手かなと思います。

○山田佳奈委員 そのところは流れだと思います。というのは、今回とりわけ補足調査のところで、対象者の皆さんが記載してくださった、要因に関する具体的な内容が入ります。ここは結構ボリュームもありますし、今後の作業もあると思うので、私が言うことではないかもしれませんが、バランスを取っていただいたほうがいいのではないかなと思っています。

あと最後に、今の54ページのところで、私も結論として、それでいいと思います。先ほど「淡々と」というふうにちらっと申し上げましたけれども、いっそのことなら、あまり解釈を加えずに言える範囲で言う、あるいはデータを示すという、私もそれでよろしいのではないかなと思っています。

あと谷藤委員、竹村委員がおっしゃっていましたように、やはり現在子どもがいない方の御意見というのも当然貴重だということ、私もそう感じています。例えば新聞報道でも目にすることがあります。まさに、子どもを持ちたくても経済的な面でなかなか持てないという御意見は……

○吉野英岐部会長 大変だ、大変だと言われると、それは引いてしまう。

○山田佳奈委員 特に、今の物価高の中で非常に生活環境も変わってきていると思っています。ですので、前回何か誤解を招く言い方をしてしまったなどちょっと反省しているのですけれども、私自身としては子育てをした経験がないので、そうした経験がない者としてやっぱり想像するのです。皆さんが子育てをしやすい環境なのだろうか、今の環境は、というふうな。あと、もう人生後半戦に入っている私としては、これからを考えている今の方たちに、いかに良い環境を残していくか、作っていくかということで、現在、目下子育てで大変な思いをされている方がいらっしゃるとしたら、どういうところに実感をされているのだろうか、どういうところで実感が低くなっているのだろうかということを知りたいのです、ものすごく。

ですので、その意味でも、先ほど竹村委員がおっしゃっていた政策的に反映していくところというのは、ワークショップの結果ですとか要因、具体的な内容とかで出てくるところは、やはり私は明確に記載したほうが良いと思っています。ということがありますし、今お子さんをお持ちでない方についても、どういったところに御不安や心配があるのかということも、やはりそこはそれぞれのお考えですので、やはり全ての御意見が重要と思っています。

何かただらと言いましたけれども、こうしたことを「では自分の文章にしてみろ」と言われると、とても無理だなと思うので、先ほどのように「いっそのことなら」というふうに言ってしまいましたが、戻って結論は同意します。

以上です。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

若菜さん、あと5分ぐらいですけれども、何かこれだけ言いますよとかありますか。

○若菜千穂副部会長 いや、十分発言させていただきました。

○吉野英岐部会長 では、時間になったら御退室いただいて構いませんので、こっちで進めますね。

○若菜千穂副部会長 ありがとうございます。

○吉野英岐部会長 では、ちょっとアイコンタクトで、ティー委員に御発言をお願いします。

○ティー・キャンヘーン委員 すみません。ささいな修正なのですけれども、修正というか、例えば16ページの表5の職業の60歳未満の無職の参考の62の後ろの括弧が何か重なっている。

○吉野英岐部会長 線が。

○ティー・キャンヘーン委員 はい。そことか、あとは34ページの表の24の平成31年と令和5年のセンタリングとか、これがささいなののですけれども、ちょっと気になったか

な。

○吉野英岐部会長 これはH31とR5に統一しているの。それとも、漢字表記、並列ですか。何かHとRがほぼ多いみたいなのだけでも。

○松館政策企画課特命課長 一応基本的には文書は令和と平成ということで書いて、グラフがRとかHという。

○吉野英岐部会長 ここは厚生労働省のデータを出している表だから、ちゃんと書きましたよという。ちゃんとというか。

○松館政策企画課特命課長 そうですね。合わせて。

○吉野英岐部会長 それでも、センタリングだけしておけば。

○松館政策企画課特命課長 文書でなくて、表の中はHとかRにしているので、全て統一したいと思います。

○吉野英岐部会長 そういう解釈で書き分けていますよということさえしっかりできていれば。

○松館政策企画課特命課長 分かりました。

○ティー・キャンヘン委員 それから、50ページの追加分析のところです。⑨の設問項目に関して、選択肢の中で「わからない」というのがあるので、実は「わからない」というのは分析の中に入れていないのです。ということで、ずっと見たのですが、これも「わからない」は分析に入れていませんよというのがどこにも書いていないのです。どこかに書いてありましたか。

○松館政策企画課特命課長 書いていないです。

○ティー・キャンヘン委員 書いていないですね。それは、できるだけ誤った認識をさせないように、「わからない」というのは分析に入れていませんよというのは多分書いておいたほうがいいと思いますので、そこをどこでもいいのですけれども、一番最初のところでもいいのですけれども、明記したほうがいいかなというふうに思いました。

取りあえず以上です。

○吉野英岐部会長 テクニカルな修正、御指摘ですけれども、指摘いただいた部分については、では直す。

○松館政策企画課特命課長 はい。スペースを見つけて、適切な場所で追記したり、修正したりしたいと思います。

○吉野英岐部会長 一番最後、ティー先生にちょっと見てもらって、これでいいかどうか。

○松館政策企画課特命課長 そうですね。

○吉野英岐部会長 お願いします。
では、谷藤委員、全体見ていかがでしょうか。

○谷藤邦基委員 細かいところを何点か。こうしたほうがいいのではないかなと思うので、判断は、あとは事務局にお任せするというか、言うだけ言います。

かなりいろいろな所に出てくるのですけれども、まず1つは最初に出てくるのが2ページ目なのですから、2ページ目の2段落目の4段目かな、「補足調査に御協力いただける者から600人を」という表現があって、実はずっとこの表現続いているのですけれども、「者」でいいのかなとちょっと思って。普通行政文書とか内部文書ではこれでいいのですけれども、ちょっと私思ったのは、これ対外的に出すやつだよなと思ったときに、協力していただいている方々にちょっと「者」では失礼ではないか。だから、ここを「者」ではなくて「方」とかにしたらと思ったのがあって、ただそれをやり始めると結構いろんなところがそうなので、直すのが面倒くさければ、別にそれで意味が分からないわけではないので、そこはお任せしますけれども、ちょっと私の感じとしては「方」とかにしたほうがいいのかなと思ったのが1つございました。

あとそれから、次に11ページのところです。補足調査結果の概要を書いているところですが、回答者の属性の右側の下から2段目、世帯構成別のところです。ひとり暮らし、同居人あり、単身赴任とかという区分になっているのですけれども、去年まではひとり暮らし、夫婦のみ、2世代世帯、3世代世帯になっていたと思うのです。あと、県民意識調査のほう、ですからこのレポートでいうと4ページもそうになっているのです。だから、あえてこれを変えた理由があるのならですけれども、そうでもなければ同じようにしておいたほうがいいのではないかなと思いました。

○吉野英岐部会長 世帯構成ですね。

○谷藤邦基委員 世帯構成のところですか。だから、実際の分析も全部世帯構成のところは2世代とか夫婦のみとかそういう区分でやっているのです、ちょっとここ違和感があって、実際去年のレポートを今改めて見ていましたけれども、補足調査でもやっぱり2世代、3世代のほうの分類になっているので、そこは合わせておいたほうがいいのではないかなと思います。

ちなみに、ここも「者」のあれが出ているので、だからいろんなところに出てくるので、直すとなると結構面倒くさいかなとは思いましたがけれども、そっちの話はそれとして、ちょっと世帯構成別のところはちょっとそこ違和感がありました。

それから、27 ページのところですか。余暇の充実のところですか。一番下のポツのところ、文章の冒頭が「特に」になっているのですけれども、今日は改めて御説明ありましたけれども、70 歳以上とか 60 歳以上の無職の人たちが実感が低い理由として、自由な時間の確保というのはこの人たちには該当しないということをお願いして、ここ書いているはずなので、だから「特に」ではなくて、「なお」で受けたほうがいいのかないかなと思いました。その辺も読んでみて、感覚の問題なので、この辺の判断も事務局の判断で結構だと思いますけれども、私的には「なお」のほうがいいのかないかなと思いました。

あとは 46 ページ、まとめのところですか、これは。(5) の必要な収入や所得の実感のところの、さらに一番最後の行ですけれども、項目列挙しているだけですけれども、お尻から 2 行目のところですか。「家族の収入・所得額 (年金を含む)」で終わっているのですけれども、「が十分とは言えないこと」までちゃんと書いたほうがいいのかないかなと。もしかしてそこまで書くと 1 行はじき出されて、隣のページまで行ってしまっただけで格好が悪いとか何か、そういう配慮がもしあったのであればなのではあるけれども、そういうことがないのであれば、一応きちんと書いたほうがいいのかないかなと。私が気がついたところはそれぐらいです。

あと、本文のほうではないのですが、概要版のほうで、最後の表 6 のところですか。表 6 の上のほうの囲みですけれども、「良い影響を感じる」が全 13 分野となっていて、表 7 のほうが「良い影響を感じる」全 12 分野となっていて、何でこうなっているかというのは、一応私らはずっと議論してきたから分かるのですけれども、要は心身の健康のところを 2 つで見ているか 1 つで見ているかの違いだと思うのですが、ただ一般の方々がこれを見たとき、何で上が 13 で下が 12 なのと思うと思うのです。だから、ここを何かそういう違和感がないような感じの書き方、単純に全分野にしてしまうか、でなければ違う理由をどこかにちょっと注意入れておくかしたほうがいいのかないかなと思いました。

私のほうは以上です。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。細かい御指摘もいただきました。

事務局、どうですか。

○松館政策企画課特命課長 基本的に谷藤先生の御指摘いただいたとおりで修正することだと思います。スペースの問題とかではなくて、単純に私のほうで記載漏れとかしている部分が主になりますので、御指摘のとおり修正したいと思います。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

そのほか言い残したことがありますか。これちょっと言い忘れたとかありますか。いいですか。

では、私のほうからは、後半の分析はさっき言ったように、H31 と R 5 でずっと行くわけですね。それで、H31 が基準年であるというのは、たしか 2 ページに書いてあるのです。ただ、括弧の中でぽんと書いてあるだけで、分野別実感がどうのこうのと、2 時点比較していますと。今年は、実は平成 28 年からのデータを載せているグラフもあるのですよね。前はそれが後ろにあったのだけれども、今は本編のほうに入ってきているので、前からあるデータがあって、H31 が何で基準年なのということを文章で言うておいたほうが、

この分析については平成 31 年の調査を基準として、その後の変動、あるいは参考としてそれ以前の変動を見ているというふうに、1 回ちょっと断り書きを入れたほうが、バックしている分が入っている分だけ、ちょっとどうして基準年なのか、単にちょうど区切りがいいから基準年なのかという意味ではないので、その辺り少し文言が増えてしまうけれども、後々ここが基準年であることの理由と、例えば今年はバックしてさらに前からのデータも入れているということを、念のために入れておいていただけるといいかなと思いました。つまり H31 というのは、使うといえば使うのだけれども、令和 1 のほうが使うことが多くて、何とか年度と言ってしまうと、令和元年度みたいな話になってしまうのですよね。4 月までしかなかったのかな。

5 月 1 日から R になってしまったので、普通、世の中的には令和元年とか言うけれども、一応この調査が 2 月時点で行われているということで平成 31 年を使うというようなこともあれば、なるほどと。H31 は R 1 ではないのですかと言われそうなところもあるので、その辺りちょっと簡単な断り書きを入れておいていただければ、H31 は意味があるのですということですよ。

委員の皆さんからいただいた御意見、細かい点を含めて直して、最後もう一回見る時間があるのでしたっけ。そこで確認したいなと思っていました。

あとは、今回はこれで全然いいとして、全体を読むと、これを広域振興局さんもお読みになると思うのですが、広域振興局的にはなかなか我が事にならないのかなというのがちょっとあったのです。実は、計画は広域振興局別につくっていただいている、全県の計画と 4 つあと出てくるのですよね。広域振興局はこの 4 年間に何をすべきかということを中心にいろいろ議論されて計画つくっているときに、本当はこういう資料も使って検討してほしいと、あるいは各年次でどういう状況だったのかということを広域振興局にもお伝えする義務が総合計画審議会的にはあるかなと。これ総合計画審議会の部会なので、審議会の中でああいう地域別計画をつくっている以上は、それに合った本編とは別の審議会向け、あるいは振興局向けの資料があったほうが面白いというか、役に立つかなと思ってちょっと聞いていました。本編はこれで全然、今回はいいですけれども、今年度から新しい 1 年目が走っているのですよね。だから、これまでの総括みたいのは昨年度までで一旦終わるから、令和 5 年といっても令和 4 年度の調査だから、意味的には令和 5 と書いてあるのは令和 4 年度までの結果のぎりぎりのところですよということを考えると、今後振興局の動きというのを見せてあげられるような資料の出し方をちょっと検討してもいいかなと思いました。

というのは、沿岸がちょっと下がっているのですよね、幸福実感度が。それで、実はよく見たら、沿岸、前は高かったのですよね。県央に次ぐ高さぐらいあったのが、ちょっと落ちてしまって、今は第 4 位に落ちてしまっていると。全体の振興局間の偏差はそんなには変わっていないのだけれども、中の順位が変わって、沿岸だけがちょっとがくがくと落ちて、県南が比較的高い位置でずっと推移しているために、県南のほうがどんどん高く出ているのではないかと。

今回分析の一部として、所得収入のところでも有効求人倍率をちょっと取り上げていただいて、かつての状況と沿岸の求職、求人のところが変わってきているのではないかと。前は仕事もあって、働こうと思えば働けたけれども、今は有効求人が 1 を切るぐらいに落ちて

しまっているというようなことで、やっぱり沿岸がかつてと置かれている状況等はちょっと変化してきたかなというふうな感じがしたので、ちょっとそういう地域別、振興局別に出せるところは出してあげてもいいかなという。それは今日の前段にお話があった地域差というのはあるよねというのがちょっとあって、報告書の立てつけというのは、実は政策分野別立てつけになっていて、政策担当者が読むと、俺の分野だというので読みやすいとか実感して、ああ、この分野低いのだとかというので、政策を立てなければというのは、県庁的にはこういうことになるのだけれども、やっぱり振興局的に見ると、うちの地域はどうなのだいというような見方を多分してくるはずで、あるいは自治体さんからも、うちの自治体が入っている地域はどうなのよと。御意見なんかも、地域でかなり違いますねとか、環境とか違うみたいですねというのも拾っているんで、そこは拾っているけれども、本編がなかなか地域別のような視点は時々出てくるだけで、全面的には出てこないんで、やっぱり広域振興圏別に計画がある以上、それに見合ったデータの出し方を次回以降はちょっと考えていくか、ここで1回まとまっているので、こういった報告書とは別に振興局向けのデータを開示してあげるのもいいのではないかなと。ここですごくいろんなデータを持っているのですけれども、宝の山なのだけれども、これというのは意外とここで止まっている話ではないかなと思っていて、例えば経営企画部さんに全部出していますよというわけではないと思いますよね。経営企画部でこれ十分使ってもらいたいという意識も私ちょっとあって、経営企画部にはこういったデータを出しておくので、ぜひ自分たちの地域がどういう状況なのかというのを、そこに住んでいる方の意識がどうなのかというのを検証する、あるいは考えるデータとして使っていただけると、広域振興局別の計画の進捗度とか課題点の発見につながるのではないかなと思っていましたので、ちょっと大きな話になってしまったけれども、そういうことも少し考えていただいたらいいかなと思いました。

私からは以上です。

大体時間来ていますので、資料2については以上のような、2とか2-2かな、以上の形で次回に進めていきたいと。

2-2は説明しましたよね、概要。

○松館政策企画課特命課長 あまり時間を取っては御説明はいたしませんけれども、書いている内容としては基本的に資料2のほうから……

○吉野英岐部会長 網羅ということですね。こちらの資料でも気がついたことがありましたら、今日でなくてもいいので、事務局のほうに御提案いただければと思います。

では、山田委員。

○山田佳奈委員 すみません、すごく細かいことです。今吉野部会長がおっしゃった令和元年というところで、資料2の3ページの表2の分析等に係るスケジュールですか、このところで「令和元年度」というふうになっているところが、これ多分「平成31年度（令和元年度）」という感じですかね。

○吉野英岐部会長 ポツでつなぐか、ちょっと行政的な表現があるので、それに見合った表現でいいと思いますけれども。確かに平成 31 年がないじゃんと言われたら。

○山田佳奈委員 すみません。細かい話ですけれども。

○吉野英岐部会長 初めて読む人でも問題なく読めるというのは大事だから。

○山田佳奈委員 今気がつきました。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。では、そこはちょっと、令和元年イコール平成 31 年だよというのが分かるように。

○松館政策企画課特命課長 承知いたしました。

(3) その他

○吉野英岐部会長 では、一応時間来ていますので、あとは事務局のほうから最後にお話があれば、それを伺いたいと思います。

では、お願いします。その他のところかな。

○松館政策企画課特命課長 (3) のその他については、こちらのほうでは特に本日御準備しているものはございません。

○吉野英岐部会長 では、スケジュールをお話ししていただくことにしましょうか。

○松館政策企画課特命課長 承知いたしました。

そうしますと、次回第 5 回の部会につきましては、9 月 12 日火曜日の午後に開催予定となっております。御予定の確保について、引き続きよろしく願いいたします。場所は、今回と同様に、こちらのエスポワールいわて 3 階、特別ホールとなります。

次回の部会につきましては、県民意識調査の結果が公表されている見込みですので、昨年同様に公開での開催を予定しておりますので、よろしく願いいたします。

以上となります。

○吉野英岐部会長 次回は 9 月 12 日火曜日の午後ということですので、予定の確保をお願いいたします。

ほかに何もなければ、事務局のほうにあとは締めてもらいますけれども、よろしいでしょうか。

3 閉 会

○八重樫政策企画課評価課長 本日も長時間にわたりまして御審議いただきまして、ありがとうございます。いただいた意見を反映させて、次回資料を取りまとめたと思って

おります。

本日は誠にありがとうございました。